

スイッチングハブの特長

1. 学習テーブルのエージアウト機能

対応機種 **全機種**

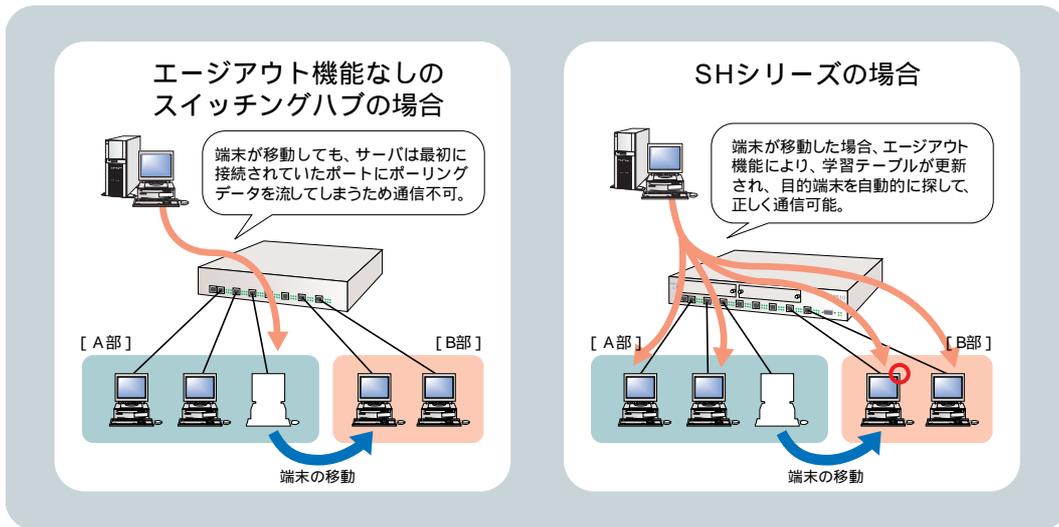
スイッチングハブは、内部で自動的にそれぞれの端末がどのポートに接続されているかの接続情報を記録しておく学習テーブルを作成しています。通常時はこの作成された学習テーブルを基にデータを中継します。

しかし、エージアウト機能がないスイッチングハブの場合、端末が他のポートに接続変更されても、学習テーブル上に古い接続情報の記録が残ってしまい、サーバからのポーリングデータが正常に目的の端末まで送信されないため、通信できません。

それに対して、SHシリーズはエージアウト機能により、端末移動時には、古い接続情報は削除され、サーバからのポーリングデータ受信時にも自動的に目的の端末を探し出し、通信することができます。

は削除され、サーバからのポーリングデータ受信時にも自

動的に目的の端末を探し出し、通信することができます。



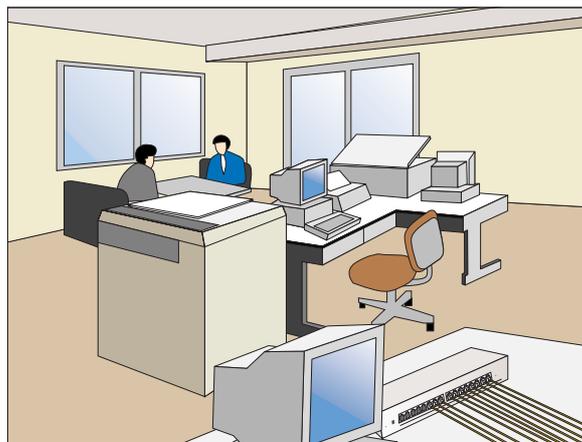
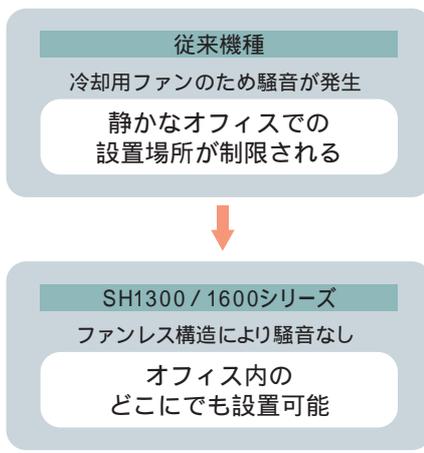
2. ファンレスによる騒音の低減

対応機種 **SH1630TF SH1630 SH1610F SH1330TF SH1330**

現状、スイッチングハブをレピータハブに置き換えてフロア内に設置する場合は、スイッチングハブの冷却用ファンである程度のファンの音が発生するため、設置場所を考慮する必要があります。

今回、富士通では、冷却用ファンを取り除いたファンレス構造により、騒音の発生原因がないSH1600 / SH1300シリーズを提供します。

これにより、騒音が気になる静かなオフィス内のどこにでも設置することができます。

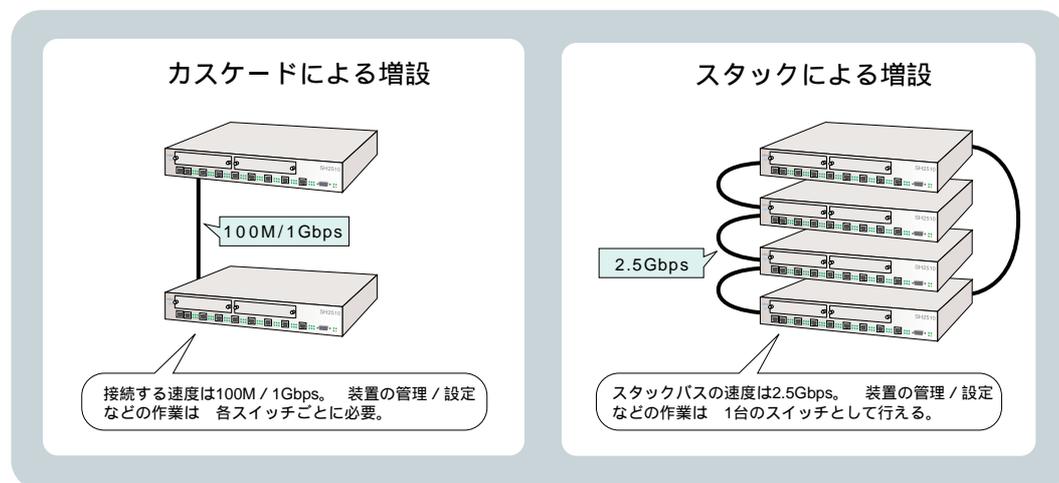


3. スタック接続による高い拡張性

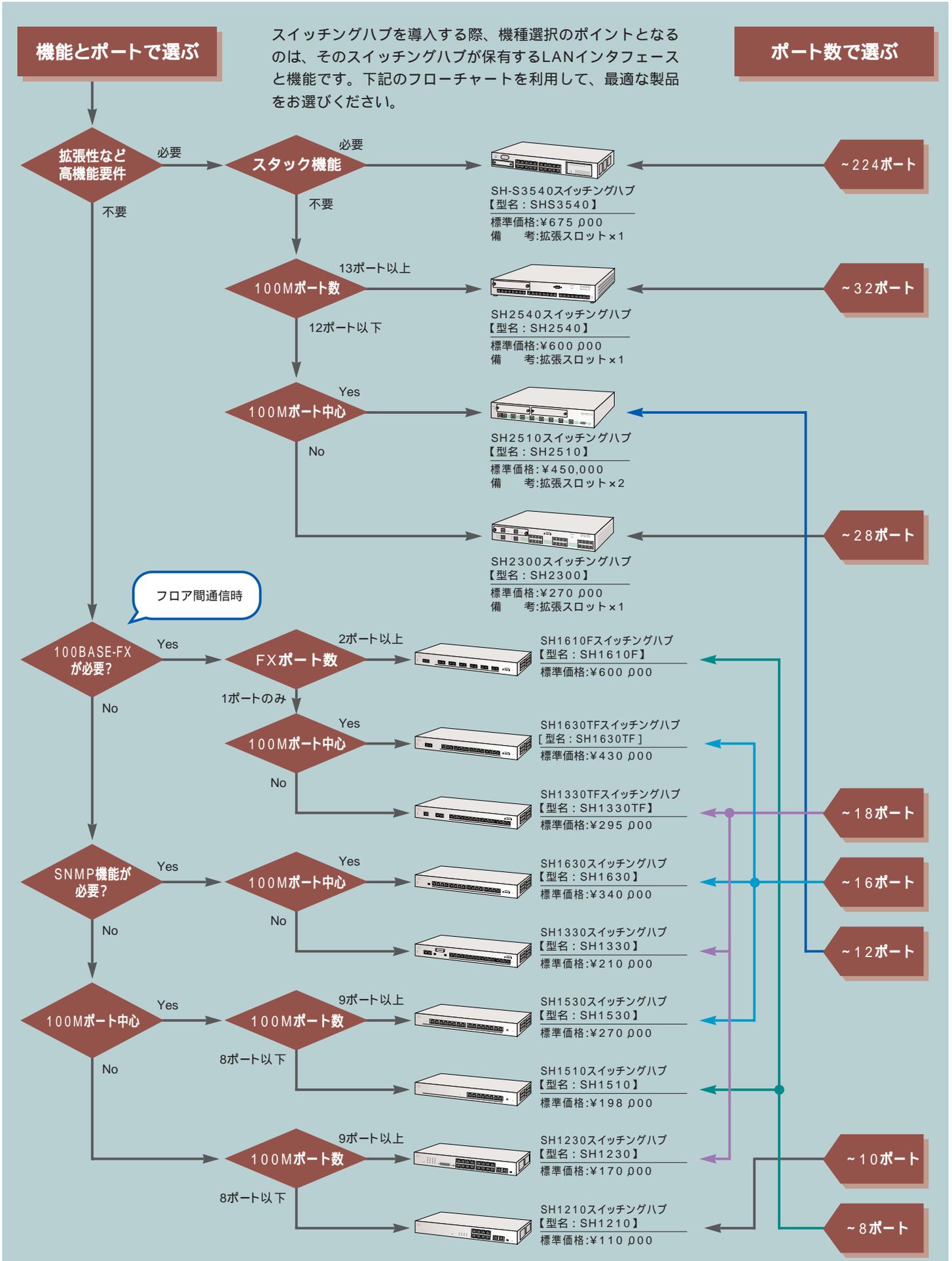
対応機種 **SH-S3540**

1台のハブではポート数が足りない場合、通常はハブ同士のカスケードにより接続を行います。SH-S3540では、最大8段までのスタック接続が可能です。これにより、最大で224ポートの1台のハブとして管理 / 運用を行うことができます。さらに、スタック接続のバス速度は超高速の2.5Gbps。多段接続時のパフォーマンス減少を最小限にした処理能力もあわせて利用できます。

広いオフィスなど、ハブのポート数が不足する場合や、段階的にクライアント数が増加する場合など、柔軟なポートの増設を行う場合に最適です。



スイッチングハブ選択のポイント



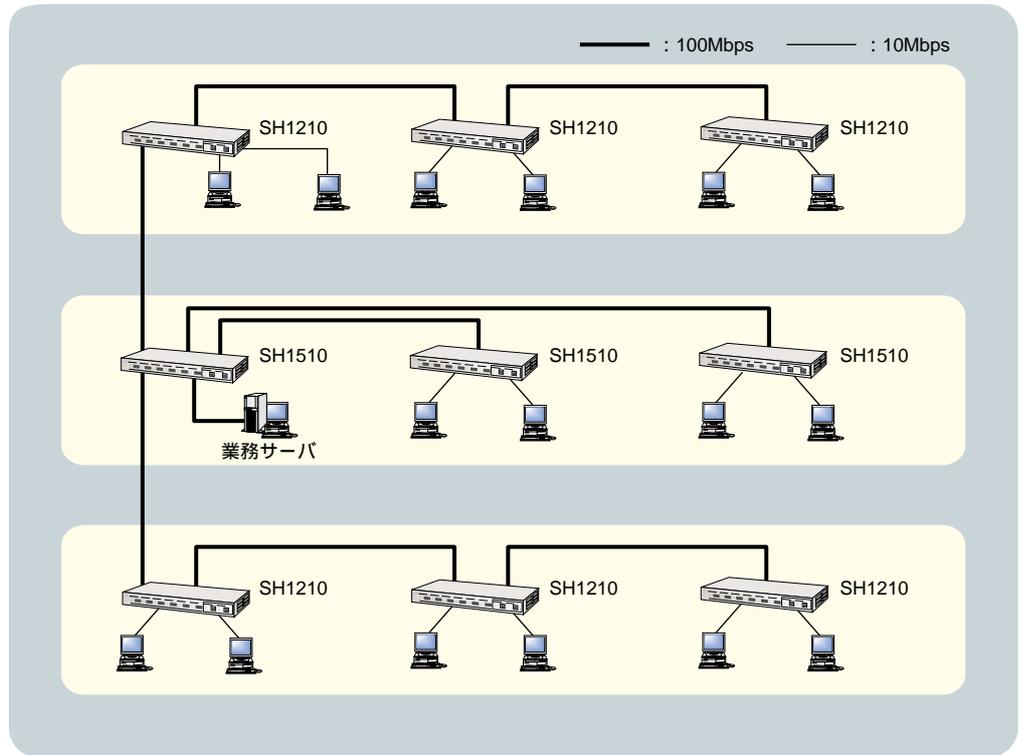
*価格には、消費税等は含まれていません。

スイッチングハブを使用した システム構築例

スイッチングハブは、大規模ネットワークから、小規模ネットワークまで、あらゆるネットワークで導入される製品です。スイッチングハブのみで構築するネットワークから、ルータやバックボーンLAN製品と組み合わせて構築するネットワークまで、利用される形態はさまざまです。下記に代表的な構築例を紹介します。

1. 小規模ネットワークにおける手軽で安価な高速ネットワーク

SH1210、SH1510を使用した構築例です。SH1210、SH1510は低価格 / 設定レスのスイッチングハブなので、既存のレピータハブをスイッチングハブに置き換えるだけで、高速なネットワークを手軽に構築することができます。また、レピータハブから置き換えた場合でも、端末側はそのまま設定変更することなく、使用することができます。



2. 組織 / フロア単位に分割した高速ネットワーク

スイッチングハブをSR5400スイッチングルータと組み合わせた構築例です。各フロア間はSR5400を経由することで、ネットワークを分割し、トラフィックの分散を図ることができます。フロア内はスイッチングハブとレピータハブを使用してクライアントやサーバに応じたインタフェースを提供します。このように、スイッチングハブをバックボーンLAN製品と組み合わせることで、高速 / 大規模ネットワークを構築することができます。

